# 4 ［随筆］　『美しさの』

　クチナシの鉢植えがいくつもならべられて、カフェテラスの窓ぎわを白いレースのようにふちどっている。前にもきたことのあるａヘンテツもない店が、これだけで全面ｂカイソウでもしたように明るくかがやいている。待ちあわせた若い女性編集者がうれしそうに問うた。「花ことば、ごぞんじですか」。だいたい知ってはいたが、はぐらかすつもりであいまいに笑った。面はゆくて、私のような者がしらふでいえるようなことばではない。答えをまたず、彼女が屈託なくつづけた。「あまりにも幸せ……」

　①おや、と内心いぶかしむ。私が知っているクチナシの花ことばは「とても幸せ」または「幸せ者」である。「あまりにも幸せ」とは、にているようでずいぶんことなる。「あまりに……」の後には通常、［　　　　　］なことばがくる。そういえば、作家、永井龍男も「朝霧」という傑作短編で、主人公に「ラセラスは、あまりに、幸福すぎたので、──不幸を求めることになりました」という謎のことばをしゃべらせている。

　Ａ彼女のひとみに真白い点がある。クチナシが眼のなかに咲いている。「あまりにも幸せ……」でもよいではないか。なにも問題ない、と気をとりなおして、私は話の流れをもどすようにクチナシについてことばを接ぐ。ジャズ歌手のビリー・ホリデイはよくクチナシの花を一輪、髪や耳にかざってステージに立ったものだが、褐色の肌にとてもよく映えた。ビリー・ホリデイを聴くとクチナシを想いだす。彼女は幸せではなかったけれども、あの髪かざりは小さな救いだったな……。そんな話を編集者はうなずきながら聴いてくれた。白い花が眼のなかでゆれていた。②いまにして思えば、花の話はそのあたりできりあげておけばよかったのだ。なのに、よけいなことをいってしまった。「クチナシはただ、しおれると　ｃミニクくなるね。落花するとゴミのようにみじめだ」

　編集者が大きな眼をさらに見はり、ひと呼吸おいてから、うすく笑って応じた。「でも、ここのクチナシは散りませんよ」。造花だから、しおれもしないし、落花もしない。水やりも掃除のてまもはぶける、という。左手を鉢にのばして、花弁や葉をむぞうさにさすったり、引っぱったりしてみせて、こともなげにいう。「クチナシやカサブランカは本物でもどこか造花みたいですけど、これは本物よりも本物っぽいですよね」

　私はつとめて平静をよそおった。しかし、体中の血がひいていくような驚きと動揺がなかなかおさまらなかった。恐怖に、それはにていた。いまの造花は見ためだけでなく触感も本物のようにこしらえた〈リアル・タッチ〉加工が主流で、空気清浄、脱臭、抗菌効果のある〈光触媒〉機能をほどこしたものも多いのだそうだ。③彼女は前に インテリア・デザインの取材をしたときに学んだといい「すごい進化ですよね」とため息をもらす。「リアル・タッチねえ。進化か……」とった心のままでうけながし、造花と知りながら花ことばを話題にすることの、罪のない罪について、このさい、なにかいっておいたほうがよいのではないかと私は思いはしたのだが、④詮ないと結局はｄダンネンする。

　ヴァーチャルなものや仮象が日ましに「リアル」にとってかわり、ニセが本物をしめだしつつある。というより、両者の境界自体があやふやになっている。古い時間に接ぎ木した新しい時間の、美しくｅセイケツな毒性。いうにいえないよるべなさのわけは、たぶん、そこにもある。ぞっとするような酷薄を〈進化〉や〈快適〉ととらえる感覚の鈍磨と倒錯。どうして⑤こんなことになってしまったのか。私たちは、やはり、あまりに幸福すぎたので、不幸を求めることになった──のではないだろうか。

　Ｂ彼女のひとみに白い花のようなものが咲いている。若い顔が無邪気に笑っている。

●語注

ビリー・ホリデイ＝アメリカ合衆国の黒人女性ジャズ歌手。

カサブランカ＝ユリの女王ともいわれ、純白の大輪の花を咲かせる。

◆漢字

本文中の二重傍線部ａ～ｅのカタカナを漢字に直せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　傍線部①とあるが、その理由を答えよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問２　２段落の空欄に入る最も適当な語句を次から選べ。6点

ア　主観的　　イ　客観的　　ウ　否定的

エ　肯定的　　オ　懐疑的

〔　　　〕

問３　傍線部②とあるが、その理由を答えよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　傍線部③とあるが、彼女（女性編集者）が「学んだ」ことが述べられている箇所を本文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。7点

〔　　　　　　　　〕

問５　傍線部④の意味として適当でないものを次から選べ。6点

ア　無意味だ　　イ　効果がない　　ウ　仕方がない

エ　頼りない　　オ　かいがない

〔　　　〕

問６　傍線部⑤の内容として最も適当なものを次から選べ。7点

ア　私たちがあまりに幸福すぎること。

イ　本物とニセ物の境界があやふやになっていること。

ウ　ヴァーチャルなものが増えていること。

エ　〈進化〉や〈快適〉に対する感覚が鈍磨していること。

オ　古い時間に新しい時間が接ぎ木されていること。

〔　　　〕

問７　波線部Ａ・Ｂの表現の違いを述べたものとして最も適当なものを次から選べ。8点

ア　Ａはクチナシと述べているが、Ｂは白い花と述べている。

イ　Ａは真白い点と述べているが、Ｂは花と述べている。

ウ　Ａは花と見ているが、Ｂは花とは認めていない。

エ　Ａは花と述べているが、Ｂは造花であると述べている。

オ　Ａは造花と述べているが、Ｂは花と認めている。

〔　　　〕

【解答】

漢字　ａ変哲　ｂ改装　ｃ醜（く）　ｄ断念　ｅ清潔

問１　「私」が知っている花ことばと違っていたから。

問２　ウ

問３　クチナシが造花であることを知らずにすんだから。

問４　いまの造花

問５　エ

問６　エ

問７　ウ

■覚えておきたい語句

□4　面はゆい………………恥ずかしい。〔類〕照れくさい

□5　屈託……………………気にかけてくよくよすること。

□6　いぶかしむ……………不審に思う。〔類〕怪訝

□20　むぞうさ（無造作）…物事を気軽にするさま。

□31　よるべ…………………たのみとする所。〔類〕よりどころ

□32　倒錯……………………正常とは反対の状態になること。

□34　無邪気…………………素直であどけないこと。〔類〕無垢

〔要　約〕

［1］～［4］段落…カフェでの私（筆者）と編集者との会話。

［5］段落…カフェのクチナシが造花だと知った私のショック。

［6］段落…私の現代社会に対する見方。

［7］段落…私とは対照的な編集者の姿。

　　　　　↓

カフェでのクチナシの話題から、それが造花であることを編集者から知らされた「私」は衝撃を受け、ヴァーチャルなものや仮象が「リアル」にとってかわり、両者の境界があやふやになっている現実に危機感を持つ。（98字）

〈筆者＆出典〉辺見　庸（へんみ・よう）一九四四年（昭和19）宮城県生まれ。共同通信記者を経て、詩人、ジャーナリスト、小説家。『自動起床装置』で芥川賞、『もの食う人びと』で講談社ノンフィクション賞、詩文集『生首』で中原中也賞を受賞。ほかに、『屈せざる者たち』などがある。本文は、『水の透視画法』（集英社文庫、二〇一三年）所収「美しさの戦慄―仮象とリアルの混濁」より。

【読みのセオリー】

★言葉の裏の意味を考える

　言葉には表の意味だけでなく、裏に込められた意味がある場合がある。傍線部②「いまにして思えば……おけばよかったのだ」とは、結果よくないことになったことを表している。「きりあげておけば」、悪いことにはならなかったというのである。どのような悪い結果になったのか、それを読み取るのである。

■読みのセオリー［実践］言葉の裏の意味を考える

問３

花の話はそのあたりできりあげておけばよかったのだ。

　　　↓　なのに

花の話を、その後も続けた。

　　　↓

その結果、「私」が知ったのは、

喫茶店のクチナシが［１　　　　］であること。

　　　↓　（悪い結果）

体中の血がひいていくような

［２　　　　］と［３　　　　］

〔解答〕　１造花　２驚き　３動揺

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊新問

問　５行目「屈託」の意味として最も適当なものを次から選べ。

ア　不安に思うこと

イ　疲れること

ウ　気をつかうこと

エ　くよくよすること

オ　不機嫌なこと

［答］エ

＊差し替え（傍線③は削除する）

問４　彼女（女性編集者）は、クチナシが造花であることに対してどのように思っているか。本文中の語句を用いて答えよ。

［答］すごい進化だと思っている

＊新問

問　筆者の考えを端的に述べている段落を段落番号で答えよ。

［答］［６］段落